



オオタカも住むという森が広がる

明治神宮内苑を宮司の門崎さんに案内してもらおう。鳥居の数は全部で7基。久しぶりに聞くヒグラシの鳴き声に、都心であることを忘れてしまう。禁足地があらこちらにあるという明治神宮。この広大な内苑では、オオタカの生息も確認されているそうで、人工林といえども、100年の重みを再確認させられる。内苑散策後は研究所にて、今泉宣子先生よりレクチャーを受け、外苑の聖徳記念絵画館へ。



書影と大正当時の地図



今泉宣子先生



押切貴先生



米から作られる清酒は大事な供物



数年前よりブルゴーニュからもワインが。

明治天皇こぼれ話：大のお酒好きだったそうで、晩酌は欠かさなかったとか。それだけ聞くと親近感が!!

奥に見えるのが御社殿。明治天皇の墓は京都伏見にあるため、ここに祀られているご神体は実は明らかにされていない。(ご神体とはそういうもの) 空襲により建立時の御社殿などは消失し、当時の面影をがあるのは回廊のみ。→



大鳥居。樹齢 1500 年のヒノキ。建立当時（大正）のものも、1970 年代に落雷により焼失した後の現在のものも、台湾より提供。

CAAS ユニット企画 / 大学院国際日本学研究院 2017 押切貴特別招へい講師夏季集中講義 (D 日程: 7/31-8/4) 内開催  
**明治神宮内苑と外苑を歩く** (8月3日)



聖徳記念絵画館正面入口



こんなに巨大なドアノッカー



絵画館の内側から見た外側

絵画館は、とにかく、そのスケールの大きさに圧倒される。いたるところに、菊のモチーフがちりばめられ、当時の粋を極めているのであろう。館内には明治天皇の出生から崩御までの 80 枚が掲示されている。



このハート形は「亥の目模様」。こう見えても日本古来の模様♥

吹いたばかりの銅屋根が、鈍色に光る。年月を経ると緑銅となり、寺社仏閣でおなじみの緑色の屋根となる。

(左の建物の屋根)→



明治記念館は今では結婚式場として有名だが、もとは赤坂仮居別殿として現迎賓館の場所に建設され、明治 21 年に帝国憲法の草案審議を行った。その後伊藤博文に下賜され、大正 7 年現在位置に移築。敷地内に憲法記念館の石碑がある。



「明治宮廷のダイニングホール」当時の衣装の前で記念撮影。